



カラビナ

発行日 平成 28 年 11 月 11 日
 発行者 特定非営利活動法人
 新潟県消費者協会
 事務局 〒950-0994
 新潟市中央区上所2丁目2番2号
 新潟ユニゾンプラザ1階
 TEL・FAX (025) 281-5558

E-mail n-shokyo@happytown.ocn.ne.jp URL http://www.nsyokyo.org/

●カラビナとは…… 登山に使われる金属製の輪です。カラビナが登山のロープをしっかりと繋ぎ、支えるように、この消費者情報が必要な情報を消費者に、消費者の声を事業者・行政に繋ぐ役目を果たすようにと名付けました。

消費者情報は第150号を迎えました

「消費者情報」は、昭和43年1月の創刊以来「賢く自立した消費者を目指して」各時代のさまざまな消費者問題に対峙してきました。新潟県消費者協会の中核的な活動の情報提供の場として年3回発行しています。今後も新たな消費者問題を的確に把握し、「持続可能な社会」と「消費者市民社会の形成」に役立つ情報をお届けするために努力を重ねて参ります。

創刊号 (発行：昭和43年1月)



B5判 4頁

第50号 (発行：平成58年3月)



B5判 6頁

第100号 (発行：平成12年2月)



A4判 8頁(表紙カラー)

目次

- 「学びあい伝えあって150号」新潟県消費者協会 会長 長谷川かよ子
 「消費者情報 第150号記念に寄せて」新潟県県民生活・環境部 消費者行政課長 鈴木克己 … 2P
- 阿南久氏 記念インタビュー …… 3P
- NEWS (平成28年度協会事業・受託事業報告) …… 4P
- 消費者トラブルキーワード「補聴器のトラブル」
 「食品ロスを考える講演会」 …… 5P
- 消費者情報に関するアンケート 結果報告 …… 6・7P
- 消費者の私が見た家庭生活「ホームステイ イン アメリカ」 …… 8P
- 県協会が「幸せの黄色いレシートキャンペーン」の助成団体に登録されました!!
 編集後記 …… 9P
- 現場を見せて! 「イオンリテール株式会社」 …… 10P

学びあい伝えあって150号

新潟県消費者協会 会長 長谷川 かよ子



昭和 42 年に新潟県消費者協会が設立されてから半世紀、来年 4 月には、50 周年を迎えます。本協会の機関誌「消費者情報」は平成 24 年 7 月から、愛称を「カラビナ」と変更しましたが、今回で 150 号を重ねるまでになりました。創刊号から最新号までを拝見しますと、それぞれの時代の先人のご苦勞や努力に身が引き締まるとともに、協会の活動は創刊時から現在まで共通する理念で貫かれていることに深い感慨を覚えます。

設立時には本協会の活動の目的について、次のように記しています。

「本協会は、消費者の利益を増進し、県民生活の安定と向上をはかるために消費者に対し商品の知識を普及し、公正な情報を提供するとともに、消費者の意向を行政及び業界に反映させる等の活動を行うものとする。」

この目的の下における活動の歴史が、150 号までの内容になります。今日まで、県協会や各地区の協会で多種多様な活動を繰り広げ、コツコツと地道に積み上げてきた記録は大きな実績として誇れるものです。この 50 年の間に、政治や経済は驚くほど変貌し、国内問題は世界の状況と大きく関わることになりました。少子高齢化、情報化、グローバル化の進展は私たちの暮らしに大きな影響を与えています。

この中にあっても消費者協会は、今後とも設立時の精神を貫きながら時代に即した様々な活動を展開していくべきだと思っております。

このことを、初代会長大井ヒデ先生が創刊号で述べられた「機関誌消費者情報の役割」という文章にある 4 つ（要約）を紹介して確認したいと思います。

- ①賢い消費者になるために各種商品や消費者問題などに関する公正な情報を提供すること。
- ②斬新な産業経済界の事情や、商品知識などに精通し、主体性のある選択や行動ができるような先達の役目を果たすこと。
- ③消費者の意向を業界や行政機関に反映させるための仲介者の役をつとめること。
- ④各地で活動する会員が励ましあい、心を通わせあうのに役立てること。

今後は、多様なネットワークとの連携・協働を図ります。また、持続可能な社会を見据え、消費者市民社会の構築のために、若手会員の増加を図り、男性会員の更なる参加を促し、地域の活動にも新たな取り組みを積極的に導入していきたいものです。協会の果たす役割は一層大きなものがあります。

自信をもって頑張りましょう！

消費者情報第150号記念に寄せて

新潟県県民生活・環境部 消費者行政課長 鈴木 克己



特定非営利活動法人新潟県消費者協会機関誌「消費者情報」第 150 号、おめでとうございます。年 3 回発行、150 回の積み重ねは、即ち新潟県消費者協会 50 年の歴史そのものかと思えます。

この程、創刊号を読み返してみました。消費生活の安定と向上を図るため、消費者一人ひとりが視野を広げ、自覚を高めるべく、強い関心を持って消費者を取り巻く課題に、真摯に取り組んでいる姿が紙面から伝わるとともに、今もなお続く課題も見受けられます。

近時は、環境問題や食品ロスなど、消費者自らが主体的に公正で持続可能な社会の形成に参画していく「消費者市民社会」に関する内容が増えていますが、その時代その時代に消費者が向き合うべき課題について、自らの取組を通じてわかりやすく

指し示しています。

こうした取組は、継続にこそ意味がありますが、一方で、継続することが一番難しいということは、誰もが実感することです。これを 50 年間 150 回、質を保ちながら続けてこられたことに対し、あらためて敬意を表す次第です。

消費者に関わる諸課題は、広範に及びかつ非常に奥深く、行政の立場からは、連携していく消費者団体は欠くべからざる存在です。

新潟県消費者協会が、この機関誌を 200 号、300 号と継続し、私たちの、時には辛口の良きパートナーとして、今後も様々な活動を通じて、消費者に対して「鐘」を鳴らし続けていかれることを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

新潟市出身・元消費者庁長官

あなん ひさ

阿南久氏

記念インタビュー

阿南久氏プロフィール

全国消費者団体連絡会事務局長、消費者庁長官などを歴任され、現在は一般社団法人 消費者市民社会をつくる会代表理事、新潟市政策評価アドバイザーにも就任されている。



長谷川会長がお話を伺いました

スタートは生協の組合員から

長谷川会長 消費者運動に関わるきっかけは何でしたか。

阿南久氏 30年以上前、娘の出産後、安全・安心な食材で育てたいという思いから生協の組合員になったことがきっかけです。生協では、食品添加物の勉強や食品安全に関わる法制度の充実を目指す活動などに参加し、生活全般について消費者が考えていかなければならない問題が沢山あることを知りました。

消費者団体をつなぐ活動

長谷川会長 消費者庁長官になられる前、全国消費者団体連絡会事務局長時代の思い出などをお聞かせください。

阿南久氏 全国消費者団体連絡会の活動で、一番印象に残っているのは、やはり東日本大震災に関わるものです。被災地の消費者団体からの要請を受けて、経済産業省に申し入れしたり、コンビニやスーパーでの食料品等の品ぞろえ状況を調査して情報発信したりといった取り組みを進めました。また、食品の放射能汚染や原発事故、復興の取り組みについての連続勉強会など、まさに消費者団体ならではの大きな活動をしました。もう一つ印象的なのは、消費者庁創設の運動です。国会議員への働きかけや、集会、理解を広げるための各地での講演など、全力投球しました。その結果多くの方の賛同と協力を得て、実現することができました。

消費者目線で

長谷川会長 消費者庁長官時代に最も力を入られた仕事、それと苦労されたことは何ですか。

阿南久氏 消費者庁は2009(平成21)年に発足しましたが、各省庁からの寄りあい所帯で課題が多く、それぞれの部署をまとめていくのが非常に大変でした。まず私は、消費者庁で働く職員が消費者、生活者目線で物事を考え、課題を解決することを目指して「消費者目線研修」などの取り組みを進めました。その成果の一つが、体験したことを職員自身が歌にした消費者庁の「子どもを事故から守るプロジェクト」のシンボルキャラクターのテーマソング「教えてね! アブナイカモ」にもつながっていると思います。



より良い消費者市民社会に向けて

長谷川会長 消費者庁長官を退任されてから立ち上げられた一般社団法人「消費者市民社会をつくる会」の経緯と現在の活動を教えてください。

阿南久氏 消費者庁立ち上げの理念は「より良い消費者市民社会をつくること」です。退官後はこの理念を継続していくことが使命であると考え、消費者団体や企業に呼びかけてこの会を立ち上げました。現在の主な活動は、『食品表示法』に関して機能性表示食品制度を中心に、企業と消費者が意見を出し合いながら問題を共有、協力して、よりよい制度として発展させていくための討論会などを開催しています。

消費者協会の活性化に向けて

長谷川会長 新潟県には各地域に16の協会があり、日々頑張っておりますが、会員の減少や高齢化の問題を抱えております。若い世代を取り込む良い方法やリーダーに期待したいこと、協会の活性化に役立つヒントなどをお聞かせください。

阿南久氏 新潟県は活発に活動している県だと思います。今年から消費者協会で取り組まれている「食品ロス」は、世界的にも共通の問題で貧困問題や、環境問題ともつながっており、関心が高まっているテーマです。学校教育など、いろいろな方法で活動することで、若い世代も巻き込んでいくことができると思います。活動は「楽しい」がポイントです。

本会員への一言

長谷川会長 新潟を離れて感じる新潟の良さやアピールポイント等、本協会の会員に一言お願いします。

阿南久氏 新潟を離れて感じることは、新潟の人々の優しさと思いやりです。多少、引っ込み思案なところもありますが「皆でやろうよ」という声かけが大切です。

消費者協会の存在は大きいという自覚を持って地域の人を引っ張って行くリーダーになって欲しいです。

<インタビューに同席して>阿南さんにお目にかかるのは2度目ですが、張りのあるお声、自信に満ちた受け答えに感銘を受けています。日々の研鑽と豊富な経験があつてのことと思います。新潟のご身とお聞きして親近感がわきます。これからの活躍に期待いたします。(編集委員 藤田純子)

NEWS ☆☆☆☆ H28 年度 事業報告

協会 事業



9/6(火) 佐渡地区講演会 佐渡市のリサイクルと 新潟市の古布・古着のゆくえ

会場：金井コミュニティセンター
講師○佐渡市環境対策課グリーン推進係

係長 野崎克裕 氏

○北海紙管株式会社西蒲区事業所 所長

株式会社ケー・エス工業代表取締役 丸山学 氏

佐渡市のリサイクルの現状と、新潟市で行われている古着や古布のリサイクルについて、回収された古着等が輸出や販売により有効活用されていることをお聞きしました。(参加者 62 人)



5/31(火) 前期消費生活サポーター フォローアップ講座

会場：新潟ユニソンプラザ

最近の相談や特殊詐欺の現状の講座の後、「認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ代表理事横田能洋氏」より、安全・安心な消費者市民社会に向けた地域のつながりや、協働で活動する方法やその重要性についてご講演をいただきました。サポーター活動に活かされることを期待します。

(参加サポーター

100人)



9/2(金) 後期消費生活サポーター フォローアップ講座(佐渡)

会場：佐渡市中央公民館

佐渡市での講座では、地域の関係機関も交え、地域の現状や見守りの視点も含めた消費者被害についての意見交換が行われました。地域内でのつながりの大切さや必要性を感じました。(参加者 25 人)

後期のフォローアップ講座は、消費者被害防止に向けた地域関係機関との情報交換やサポーターのレベルアップのため、他に、上越市、南魚沼市、長岡市、新潟市、村上市で開催します。

受託 事業

8/24(水) 高齢者福祉関係事業従事者向け 高齢者被害防止啓発のための学習会

会場：新発田市生涯学習センター

高齢者の見守りをされている福祉事業関係者向けの学習会を新発田市で行いました。高齢者被害防止のためにも、関係者の連携による見守りの重要性を再確認しました。(参加者 43 人)



9/3(土) 対象者層に応じた消費生活講座 子どもたちのまわりに危険がいっぱい！

会場：新潟市万代市民会館



子供を安心して育てるための消費生活講座として、子育て中の人を主な対象として開催しました。講座では、子供服のフードの危険性などの商品を選ぶ注意点、情報の収集など生活の中での危険についてお話を聞きました。その後、糖度計を使って、お菓子などの糖度を量り、それぞれに含まれる砂糖の量を角砂糖で換算し確認しました。

参加した若いお母さんは、「初めて知ることばかりで、参加して良かったです」と話していました。

(参加者 44 人)

【訂正】消費者情報カラビナ 149 号の 8 頁「最近気になるスポット 農業特区活用の農家レストラン」でご紹介した「La Bistecca」様の記事の中に、「自分の牧場の牛肉を提供する」と記載しましたが、来年の夏の提供を目指しており現在は新潟県産の牛肉を使っているとのことです。

消費者トラブルキーワード

- ★補聴器を試聴した時は聞こえたが、購入したものは何度調整しても聞こえない。
- ★使用すると頭痛がし、高額なため解約したい。
- ★補聴器を買ったが専門医から不要と言われた。

『補聴器』は、法的な規制のある管理医療機器です。聴力や使用状況に合わせた調整が必要で、補聴器専門店や医療機関で調節する必要があります。

高齢者が店舗で勧められるまま補聴器を購入し、トラブルになっている相談も多くあります。

まず、聴力の低下を感じたら、耳鼻科の専門医に相談し、適切なアドバイスを受けることが大切です。

「補聴器」と「集音器」は違います！！

雑誌やテレビCMで見かける「集音器」は難聴者が補聴目的で使用する『補聴器』ではありませんが、耳かけタイプのため補聴器との区別がつきにくく、「軽量・小さくて使いやすい！」「テレビ、会話など聞こえやすい」「軽度な難聴や聴力に不安を感じたら」など補聴器と同じような表現で売られているため、消費生活センターには「補聴器だと思って買ったなら聞こえない！」といった相談が寄せられていますので注意しましょう。

食品ロスを考える講演会

平成 28 年 6 月 24 日
新潟市万代市民会館

「残さず食べよう！にいがた県民運動」

講師：新潟県県民生活・環境部廃棄物対策課資源循環推進係長 陶山将人氏

4月25日のG7農相会議「新潟宣言」では、「食品ロス」の削減推進が表明されました。新潟県は今年度から、資源循環型社会推進計画の重点施策の一つに、食品ロスゼロに向けた『残さず食べよう！にいがた県民運動』に取り組むことになったとの報告がありました。

「みんなで減らそう食品ロス～松本市における食品ロス削減の取り組みについて～」

講師：長野県松本市環境政策課課長 三沢真二氏

松本市は、『もったいない』をキーワードに3Rの取り組みを推進し、平成22年から食品ロス削減事業、平成24年から園児を対象に参加型の環境教育、平成27年から生ごみリサイクルのための堆肥化講習会などを実施しています。

まず、現状の把握のため一般家庭ごみの組成調査を実施しました。賞味期限内のものや期限後1か月以内に捨てられるものが半数もあり、まだまだ食べられる食品が廃棄されていることが分かったとのことです。

『残さず食べよう！30・10運動』を展開。家庭で、毎月10日は「もったいないクッキングデー」毎月30日は「冷蔵庫クリーンアップデー」。外食では、宴会・会合等の「乾杯30分間とお開き前10分間は席を立たず料理を楽しもう」を推奨しています。

補聴器のトラブル



補聴器が必要か、効果があるか、 の判断は専門医の診断を

聴覚検査の結果と日常の音の環境と、それぞれの人にとって重要な会話の関係から総合的に判断する必要があります。聴力障害と補聴器の両方を熟知した、日本耳鼻咽喉科学会認定の補聴器相談医(※)の診察を受けてください。

家庭での使用が主な場合には低価格のもので十分な機能を備えています。正しく調整されているかどうか重要です。

補聴器は個人ごとに細かい調整が必要です

補聴器相談医の診断に基づいて調整をしてもらう必要があります。微細な調整は、素人やコンピュータではできません。医師の正しい方針と熟練した言語聴覚士、補聴器技能者などの技術が必要です。

高齢者だけで店舗に行かない

「聞こえ」の程度が十分でない高齢者は、特に契約の際は家族など周りの人が付き添い、サポートすることが望まれます。

日本耳鼻咽喉科学会のHPより

※補聴器相談医とは、講習と実習を受講し日本耳鼻咽喉科学会理事長が認定した専門医です。日本耳鼻咽喉科学会のHPで最寄りの専門医を紹介しています。



食育の観点から園児

に環境教育(クイズや紙芝居)を行った結果、園児の食べ残しが減り、自ら行動し、ごみ分別も始めたとのことです。親の間違いを注意したり小学生にも教えたりと、保護者や周囲にも影響を与え、効果は予想以上に大きいことが分かりました。また、松本大学の学生とコラボし、「もったいないクッキングレシピ」の開発なども実施されました。

長野県は平成26年度1日一人当たり860gとごみ過小日本一に輝きましたが「チャレンジ800」(800gを切ることをめざす)というさらなる高みをめざしています。

食品ロスは家計の無駄使い。時間がかかりますが、できることから徐々に広げたいとのことです。

(事務局長 高杉陽子)

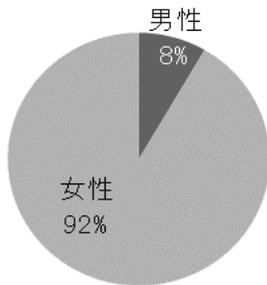
消費者情報に関するアンケート 結果報告

16団体の会員20人ずつにアンケートをお願いしました。激励、感想、提案などたくさんの声をお寄せいただきました。貴重なご意見をグラフなどで紹介します。

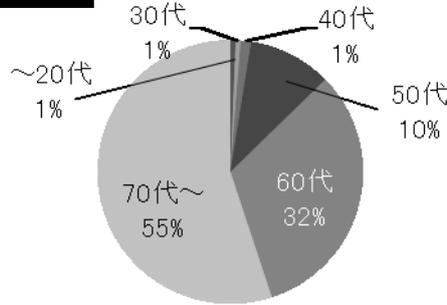
☆女性、熟年層が多かった回答者（性別・年齢）

アンケート配付枚数 160枚
（16団体に各20枚ずつ）
回答数 158枚（回答率99%）

性別



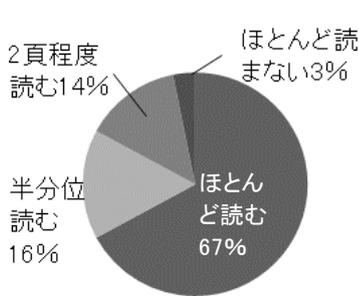
年代



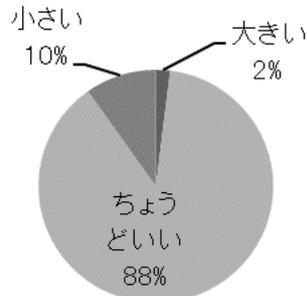
各団体には、役員と一般会員へ回答をお願いしました。回答者は女性、年齢的には60代・70代が圧倒的に多数でした。団体正会員の実情が現れているとも言えます。

☆多くの会員が関心を持って読んでいて、普通以上の評価

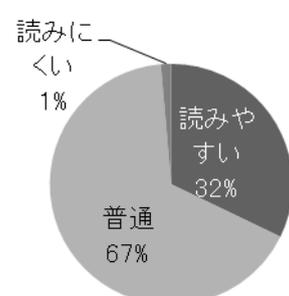
「消費者情報」をどの程度読んでいるか



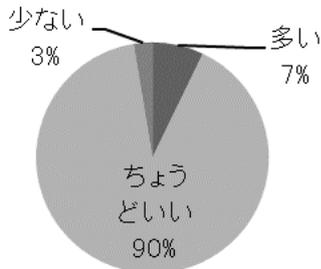
文字の大きさは？



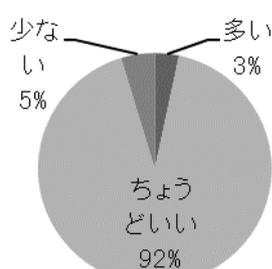
レイアウトは？



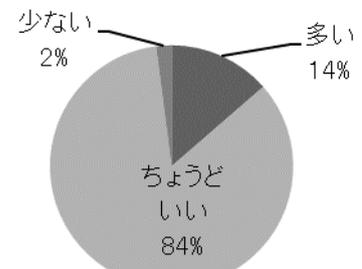
ページ数は？



写真・イラストなどは？



記事の分量は？



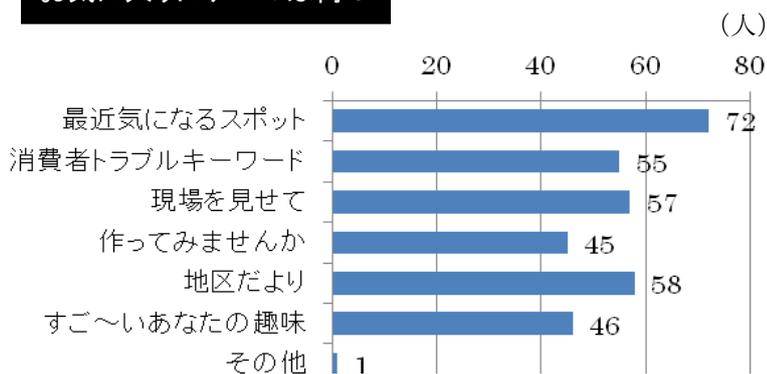
その他の「感想」

- ・写真、イラストがバランス良く掲載され読みやすい(3人)
- ・文字が大きくてよい。
- ・カラー写真の採用などで見やすくなった。
- ・レイアウトもめりはりがあり、文字の大きさも良いが、もう少し文字を濃く(2人)
- ・目次で読む気になったり、とばしたりしています。

文字の大きさ、レイアウト、ページ数、写真・イラスト、記事の分量は、おおむね「ちょうどいい」という評価でした。カラーページの制作費を心配するご意見もありました。

☆お気に入りテーマは「最近気になるスポット」

お気に入りにテーマは何？



☆記事を参考にトライした人は少ない

「作ってみませんか」の記事を参考に、何か作ったり、トライしたことがあった？

- ・手作り打ち豆
- ・いちご大福 (2人)
- ・ポリ袋クッキング
- ・なす漬け、玉ネギの皮で染め物
- ・リサイクル小物
- ・手ぬぐいの帽子
- ・いつか作ってみたいです(2人)

☆これからの編集に要望・感想・エール

「消費者情報」に関する感想・思い出、心に残った記事、今後取り上げて欲しい企画・記事、これらに対する期待・要望・注文等

(たくさんいただきました。主なものを紹介します)

- ・トラブルキーワード、地区だより等はずっと気をつけて読んでいます。これからも楽しみにしています。
- ・NEWSの記事はとても参考になります。
- ・文章が困ってある部分は読みやすいのですが、困っていない部分は少し読みづらく感じます。写真がたくさんあります。
- ・「消費者市民社会」などの専門用語の説明は良かった。これからもカタカナ用語、時の用語などもわかりやすく載せていただけたらと思います。
- ・近年とても読みやすく楽しい内容になってきました。
- ・現場を見せて、などは研修見学コースに苦慮しているので参考となる。
- ・見出しがはっきりとわかり、見たい読みたい記事の優先順位が決めやすくなりました。
- ・地区だよりでは、自分達と同じ悩みとか、色々工夫している事など参考になる内容が多い。(類似意見3人)
- ・情報源としては幅広く紹介されており、色々な話題がとりこめる。(類似意見3人)
- ・県内各地域の情報をもっと載せてほしい。
- ・余り細かいことより大所高所からの内容のものや 他県の様子などを。
- ・県内の各地で地元の人しか知らない知的財産を紹介して欲しい。
- ・タイムリーなことを取り上げてほしい。
- ・食品ロス削減のため、食品の加工法、保存法などを。
- ・キーワードコーナーを作してほしい。例 保証人って？(保証人と連帯保証人の違い)
- ・環境問題についてみんなで学ぶ機会がたくさんあった方がよい。温暖化がとても心配です。
- ・毎号様々なテーマが取り上げられておもしろい。
- ・ご苦労ありがたいが、年3回は多いのでは。(類似意見5人)
- ・自分で参加することにより興味がわくと思うので、積極的に記事提供できたらと思います。
- ・カラビナという意味が分からないので教えてください。
- ・編集の方々大変ご苦労様です。素晴らしい内容が多かったです。(類似意見5人)

今回、載せきれないほど多くのご意見をいただき、今後への力になりました。いくつかのご意見について、事務局より回答がありましたので右をご覧ください。

ご協力ありがとうございました。

(編集委員 桜井喜美子)

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

「消費者情報」は、発行部数2,300部の新潟県消費者協会の唯一の情報紙として、会員以外の関係団体、一般市民にも配付され、様々な場面で協会活動紹介・PRに活用されています。編集委員の努力で、印刷会社へ依頼する編集作業を減らし、経費削減にも努めております。これからの協会事業の広がりのためにも年3回の発行・費用は、協会事業にとって適正なものと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。「カラビナ」の意味がわかりにくいというご指摘がありましたが、元来登山の際に荷物を繋ぐ金具のことで、「情報や消費者の声を社会に繋ぐ」という意味で名付けました。(表紙タイトル下をご参照ください)他にも、いろいろ貴重なご意見をいただきました。これからの情報紙作りに生かしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。(新潟県消費者協会 事務局)

ホームステイ イン アメリカ

柏崎市消費者協会 中村 文子

今年の夏、私は柏崎に住んでいる知人（アメリカ人）の紹介で、カナダとの国境と五大湖に近いデトロイト市から車で2時間のバットラー（アメリカのインディアナ州）という小さな田舎町にホームステイをして来ました。ステイ先は、67才のトムと66才のメリィジョーというリタイアしたご夫婦の家で、友達2人でお世話になりました。ここで見聞した一般家庭の消費生活を紹介したいと思います。



ホームステイ先の家

ゴミの収集は、バットラーでは、生ゴミは週1回の回収で3か月で70ドル（7,000円位）、資源ゴミはゴミ箱の横に置くと持って行ってくれます。



一軒一軒にあるゴミ箱

消費税は、7%で、食料品にはかかりません。（州によってはシステムが違います）

大きいスーパーのレジは、無人で、自分で商品を機械に読み取らせ、カードや現金で払い、品物を袋に入れます。もちろん規模の小さいスーパーは人がレジをしていました。

日本のフードバンク的な活動に、奥さんが教会の関係で関わっていましたので、現場を見せていただきました。教会関係者とコミュニティの人で週2回オープンし、ボランティアによる運営です。名前は“Helping hands”洋服・靴・バッグ・本などは寄付で、食料品は寄付金で買います（会社からの寄付はたまにある程度）。食料品は訪れた一人一人に渡し、現在の状況などを聞いてコミュニケーションを取っていました。時間は2時間位で終わりました。



食品バンクと隣の衣類コーナー



食品ロスに関しては、レストランに行ってお食事を残すと、ドギーバッグ（残り物を入れる容器）システムがあり日常的に持ち帰りが行われています。

品物のリユースは、盛んで、市民が不用品を流通させるガレージセールが行われ、新聞で告知すると新聞片手に車で買いに来ます。



ガレージセール

アメリカはビッグ！

近くに貨車が通っていましたが100両以上の貨車が連結されていました。物流・景色・物の量・心の大きさ全てビッグでした。

私の心に一番残ったのは、やはり人対人の心でした。ホームステイ先の93才のおしゃれなおばあちゃんに“長生きの秘訣はなんですか”と聞くと彼女の答えは、Love（愛）・Hope（希望）・Thanks（感謝）でした。これは人として共通のことだと思いました。



県協会が『幸せの黄色いレシートキャンペーン』の 助成団体に登録されました！！

近年、環境問題や地域社会への貢献に取り組む活動をする企業が増えています。その中の一つに、イオンは、2001年から『幸せの黄色いレシートキャンペーン』という活動を行っています。毎月11日の「イオン・デー」に買い物をすると、黄色いレシートが発行されます。この黄色のレシートを地域で活動するボランティア団体のボックスに投函すると、レシートの合計金額の1%相当の物品が助成団体に寄付されるという制度です。

今回、団体賛助会員イオンリテール㈱様が、新しく7店舗で同キャンペーンを始めるにあたり、社会貢献活動に関する意見交換の機会があり、当協会は消費者関連分野で長年継続的に活動してきた実績により、登録対象として適しているとの判断をしていただきました。改めて、10月5日、団体登録申請をして、10月11日の「イオン・デー」より、ボックスが設置さ

れることになりました。

来年設立50周年を迎えるにあたり、外部から協会の活動を高く評価していただいた結果だと、大変うれしく思っております。



当協会の投函ボックス

来年度には最初の贈呈式が行われますので、今後各地区団体の皆様と活用や用途を検討し、贈呈式に臨みたいと思います。

下記の7店舗で毎月11日にお買い物をされた際は、当協会のボックスに黄色のレシートをご投函いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

新潟市内	イオン亀田 イオン山二ツ イオン藤見町	イオン笹口 イオン上木戸
村上市内	イオン村上肴町 イオン荒川アコス	

< 編集後記 >

- ★読んでもらえる情報紙をめざし100号～112号、140号～150号と編集に関わられたこと、感謝しています。(編集委員 桜井喜美子)
- ★取材して出来上がるまでの苦労は大変ですが、この過程を楽しんでいます。読者の反応を期待しています。(編集委員 藤田純子)
- ★毎回考え悩み苦しむ、でも会報ができると嬉しい、周りの人に助けられて作っています。(編集委員 中村文子)
- ★原稿を編集委員の意見を踏まえて手直しし、良くなっていく過程はやり甲斐があり楽しいです。(編集委員 山本ヒサ)
- ★メールや電話で何度もやり直すのが大変ですが、出来上がった時の満足度はひとしおです。(事務局長 高杉陽子)
- ★毎号、企画・編集は産みの苦しみですが、出来上がると達成感があり、もっと良いものを作りたいです。(事務局員 竹内則子)
- ★編集会議のたびに、消費生活について、編集について、新しい発見があり嬉しいです。(事務局員 堀江智恵子)



嫁にいった娘がとっさどき、
帰って来ては、自分の育った
家と懐かしみ、あちこち
部屋をみて廻る。
「お父さん元気」「うん」
思い出の残り
大切に住まい。

広告を良く見て聴いて確かめて



公益社団法人 首都圏不動産公正取引協議会

〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目3番 ニッセイ半蔵門ビル3階
☎03-3261-3811 ホームページ: <http://www.sfkoutori.or.jp>

《現場を見せて!》

イオンリテール株式会社

フードロス・チャレンジ・プロジェクト(※)活動に賛同し、
店舗で廃棄される食品の削減に取り組んでいます。

食品ロス第2弾として企業の取り組みを紹介し、団体賛助会員のイオンリテール株式会社北関東・新潟カンパニー人事総務部新潟担当広報部長兼渉外担当の山城篤司さんから話を伺いました。



食品ロス削減の取り組み

「つれてってシール」のついた商品を買って!



値引きシールとつれてってシール



つれてってシール

イオン新潟青山店では、賞味期限・消費期限が切れて廃棄される食品を減らすために、期限が迫った食品の最終の値下げ価格に、値引きシールと一緒にメッセージ入りのシール「つれてってシール」を商品に貼り、期限の迫った商品から順に買って、食べてもらうよう呼びかけています。

期限の迫った商品から選ぶ、先に食べることは食品ロスを減らすために消費者ができる有効な消費行動です。「つれてってシール」は、新潟青山店をはじめ、今後他の店にも広げていく予定です。

適量売り

① ばら売り



ミニトマトばら量り売り

単身者や少数世帯が増加する中で、必要量だけ買える適量売りは、食品ロス削減に役立っています。当初は、販売時に直接食品に手が触れることに、消費者は抵抗感があったようですが、今では当たり前になりました。

② 総菜の大・小売り、野菜のカット売り



五目きんぴらの大小



キャベツ1玉と半玉

※“フードロス・チャレンジ・プロジェクト”とは
まだ食べられるのに捨てることを許してしまう社会の仕組みに、私たちも何らかの形で関わっているのではという問題意識から始まりました。「食べること」や「食べ物を大切にしたいという人間本来の気持ち」に立ち返り、生活者、企業、行政、生産者、NPO、学識者が一緒になって取り組み、よりよいアクションを創り出していきたいと考え、「食べる」ことへの感謝があり、生きる土台がきちんとしている社会の仕組み作りを目指しています。

過剰在庫による廃棄を防ぐPOSシステム

店の過剰在庫が食品破棄につながることから、在庫管理のためにPOSシステムを採用しています。商品を購入すると、値札に付いているバーコードの情報は、イオンだけでなくメーカーにも情報が共有されるので、注文無しでタイムリーに商品の補充ができ、物流の効率化により短時間で店に着きます。また、各種情報が蓄積され、このデータを集計分析して売れ筋商品や気候、イベント等における購買傾向が把握できます。在庫を少なくして食品ロスの削減に努めています。

【イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー】

〒950-0911

新潟市中央区笹口1-1-1 プラールカ1・3F

電話:025-255-0024

イオンは、1980年代から食品ロス削減について企業と消費者の立場から考えて取り組み、今後の課題は食品残渣のリサイクルで、行政が積極的であれば協力していきたいそうです。「つれてってシール」を採用する店舗を増やしていただくことで、消費者の意識啓発に貢献できるものと思います。また、電子マネーWAONの利用額の0.1%を寄付して、地域活動に貢献していることに対して県から感謝状を授与されたことをご紹介します。(編集委員 山本ヒサ)